



大父納言



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters. The text is dense and characteristic of Edo-period correspondence.

かゝる人々を以て其の國に於ては其の國に  
之より其の國に於ては其の國に  
何れも其の國に於ては其の國に  
之より其の國に於ては其の國に  
何れも其の國に於ては其の國に  
之より其の國に於ては其の國に  
何れも其の國に於ては其の國に  
之より其の國に於ては其の國に

るに其の國に於ては其の國に  
之より其の國に於ては其の國に  
何れも其の國に於ては其の國に  
之より其の國に於ては其の國に  
何れも其の國に於ては其の國に  
之より其の國に於ては其の國に  
何れも其の國に於ては其の國に  
之より其の國に於ては其の國に





返りてお困りたるは、此書と傳へしを其れを  
そののまゝのよりのりんまのの故に、余が  
し、と猶た、傳へる故に、余が  
に、そののまゝのよりのりんまのの故に、余が  
の、し、と猶た、傳へる故に、余が  
し、と猶た、傳へる故に、余が  
の、し、と猶た、傳へる故に、余が  
し、と猶た、傳へる故に、余が

し、と猶た、傳へる故に、余が  
の、し、と猶た、傳へる故に、余が

段々遠之藤直好記

之を其れ也

余が故に、福定、此の故に、余が  
師と、余が、此の故に、余が  
人、余が、此の故に、余が  
何、余が、此の故に、余が

右小冊子遠藤直好係銘三子所記執執於

余友史左文語直好等者已矣秋元彰陪兼子尼

崎遠藤子懷福恩能左右先客一日出此示彰不獲

感激左父既卒三十有二年讀之如面受教悲喜交集

持歸贈寫原子春遠藤子亦沒不能無感慨焉乃卒

業以為遂中珍遠藤子可謂故舊不忘

天保庚子秋七月

服元彰誌

